チャンチンの増殖と試験地造成に取り組む

1. はじめに

林木育種センターでは、林木の新しい需要を生み出すことを目的に、早生樹等の選抜を進めています。その中で対象となっている樹種の一つがチャンチン（*Toona sinensis*）です。チャンチンは中国原産のセンダン科の落葉高木で、まっすぐな単幹の樹形が特徴です。成長がとても早く（図 1）、条件が良いと数年で数メートルに達し、幹が直立し下枝が少ないため、下刈りや枝打ちの省力化も期待されます。

さらに、材は赤褐色で見た目がよく、耐久性もあるため、家具や内装材等に利用されています。マホガニーに似た材質を持つことから「チャイニーズ・マホガニー」とも呼ばれ、国内の広葉樹資源としても利用できるのではないかと考えられます。

そこで、チャンチンの利用に向けて、遺伝資源部では、苗木生産方法の確立及び育成に関する基礎情報の収集を目的として、秋田県及び山形県内に試験地を造成しました。

なお、本試験地の造成は、一般財団法人日本森林林業振興会の助成事業を、一般財団法人地域森林整備集団及び全国天然木化粧合単板工業協同組合連合会とともに受託し、植栽・育林が可能な地域の把握と寒冷地における成長性の解明を目的に実施したものです。



図1　試験地におけるチャンチン（3年生）



図2　さし木で発根したチャンチン

2. チャンチンの増殖

試験地の造成に向け、まず苗木の確保に取り組みました。長野県内のチャンチン自生地で、これまでの調査で優良木とした個体等から、令和 6 年 12 月と令和 7 年 6 月に根萌芽を採取し、ポット等へ移植し、育苗を行いました。また、これまでの研究で、チャンチンでは根を地中に寝かせて植える「根伏せ植え」によって萌芽を発生させる方法が有効であることが示されていたため、この方法による増殖にも取り組みました。これらの作業は秋田県大仙市の一般財団法人地域森林整備集団とともに行いました。

しかし、寝伏せ植えにより根萌芽を発生させる方法は根萌芽の発生に時間がかかることから、さし木による増殖にも取り組みました。その結果、チャンチンはさし木でも発根することが確認でき、特にエアざし©[1] では高い発根率が得られたことから（図 2）、苗木の安定的な供給に向けた有効な手法として期待されます。

3. 試験地の造成

育苗した根萌芽やさし木苗を用いて、令和 8 年 5 月に秋田県内の伐採跡地と山形県内の休耕田において試験地を造成しました（図 3）。さらに、植栽時期の違いによる活着や成長への影響を調べるため、令和 8 年 10 月にも追加で植栽を行う予定です。今後は継続的に調査を進め、チャンチンの育成方法や適地条件に関する知見を蓄積していきたいと考えています。



図3　造成した試験地（左）と苗木の様子（右）（山形県白鷹町）

[1] エアざし© は、「特許番号：第 6709449 号　発明の名称：さし穂の発根装置」の略称です。

（遺伝資源部　保存評価課　倉本　哲嗣）